



独立行政法人 国立病院機構

長崎川棚医療センター

新年のご挨拶



【年頭所感】

民間への視点の転換のとき2010年

2010年1月吉日 院長 宮下 光世

新年あけましておめでとうございます。
新しい年を迎え皆さんそれぞれ心新たにされた
ことでしょう。

2010年の長崎川棚医療センターの目標は「民
間への視点の転換」です。

昨年を一言で振り返ってみると「政権交代」で
あったと言えます。「変化」と言い換えてもいい
かもしれません。アメリカでは民主党オバマ政
権へ変わりました。日本でも戦後約60年間続い
た自民党政権が終わり民主党政権となり、政治
の色々なやり方が劇的に変わったという印象が
あります。その中で特に目立ったのは予算編成
での“事業仕分け”でした。各省庁が持つ事業の
見直し、本当に必要な事業か、また今すぐ実施
しなければならない事業か、事業の重要性と緊急性
を評価し無駄をなくそうという取り組みで
した。この過程で挙がってきたことに独立行政法
人の見直しがあります。全部で98の独立行政法
人が真に必要な法人かどうか評価されたので
す。私たち国立病院機構も例外ではありません。
色々な事業の契約が適切に行われているかなど
細部に渡りチェックされています。大変なこと
です。しかし見方を変えればこれまでの私たち
を見直すいい機会とも考えられます。今年の4月
から私たちは公務員型から非公務員型の独立行
政法人として再スタートする予定になっていま
す。国会の日程もあり少し遅れそうですがその
日は必ず来ます。

私たちは2004年に国立病院から国立病院機構
となり、中期目標をたて経営面、診療面で自らの
足で立つために改善を図ってきたところでは
す。その結果として昨年外部評価委員会から高い評
価をいただきました。しかしその中にもあっても
私たちには長年の思考過程、行動過程で知らず
知らずに身につけてきたものがあるようです。
そのひとつが前と同じやり方の踏襲です。それ
が一番楽な方法だからです。この機会にこれ
を見直し改善していく年にしたいと考えます。何
も経営面だけの問題ではありません。診療面
においても質を高めるための改善を進めたいと考
えます。これには今年の病院機能評価受審への
取り組みが役立つと思います。

私たちは公務員型独立行政法人として民間で
はできない医療を担う、国民の医療の最後の砦、
セーフティーネットでありたいと思い取り組ん
できました。この気概を持ち、非公務員型すなわ
ち民間の視点を持つことで、私たちはさらに進
化するのだと確信します。「民間への視点の転
換」、この取り組みで2010年の大きな2つのプロ
ジェクト、2回目の病院機能評価受審と電子カル
テ更新を成功させ、さらに新病棟建替え決定を
実現する年にしたいと思います。

みなさん本年もよろしくお願ひ致します。

「病院理念」

病む人のために病む人の望む安心・安全な医療を提供します。



三

度目の「年男」となります。これまで干支なんて意識することもありませんでしたが、少しだけ年をとりました。調べてみると、十二支の三番目にあたる「寅」は「伸(のばす)」と同系の語で、「寅年」はまいた種が芽を出し、芽がすくすくと伸び始める年なのだそうです。



赴任してから七月で三年目となります。ちゃんとした種をまき、お水をあげたかな？とは思いますが、目標をしっかりと定めて努力し、充実した一年にしたいものです。

神経内科医師 白石 裕一

昨

年は、国内では「新型インフルエンザ」、「鳩山新政権」、海外では「オバマ新政権」と、やが、私にとっては、苦悩の一年だったかもしれない。



生まれて初めて「手術」というものを経験した年でもありました。今年、「年男」ということで、新しい事にチャレンジしたいと思えます。診療報酬改定の年でもあり、新年早々から準備に追われそうです。

専門職 田辺 俊介

早

いもので勤務して三〇有年が経過しました。病院名も当初「国立療養所川棚病院」が「長崎川棚医療センター」となりました。それと共に病院食も中央配膳、温冷配膳車の導入等、千変万化といかなくても様変わりしています。



健康を取り戻す薬の一つと言っても過言ではありません。治療食は患者さんの日々の状態やアレルギー等にも対応しています。さらなる内剛外柔に努め、熟慮断行していきたいと思っています。

調理師長 福田 誠

寅

年です。虎といえば釧路動物園のアムールトの障害を持ちながらも懸命に日々を生きる姿に感動させられました。十二年に一度の節目として振り返ってみると、「本当に速かったな」というのが実感です。



今年、目標を漢字一字で表すとすれば「時」で漠然とした時を送るのではなく、今という時を少しでも意識していければと思っています。

理学療法士 出口 敬浩

年男・年女からの

メッセージ

「新年おめでとう
ございます。
今年もよろしく
お願いします。」



去

年は初めて後輩ができて嬉しい反面、「しつかりしなくてはい!!」と気合いを入れて日々の業務に取り組んだ一年でした。今年で卒後四年目を迎えます。今年には自分の心にくもりを持ち、周りの状況に目を向けながら日々の仕事に取り組んでいけたらいいなと思います。



今年には昨年以上に笑顔で元気にスタッフと協力しながら頑張っていきたいと思っています。

看護師 力石 美智子

就

職して九ヶ月が過ぎました。振り返ると、失敗もありましたが、先輩方から様々な指導をいただき、支えられ、多くのことを学ぶことができました。まだまだ分からないこと、患者さんとの関わりで戸惑うことなどがあり看護って難しいと日々感じています。



一人の看護師としてもっと成長できるように、これからも勉強と経験を重ね、技術を身につけることはもちろん、しっかりと患者さんと向き合える看護師を目指したいと思っています。

看護師 福島 友香里

本

年の抱負 今年、年男ということで、病院全体を明るくできるように常に笑顔をみんなに振りまいていきたいと思います。また、自分自身ももっと成長するには今年、勝負の年だと思っているので新人採用者研修(SOS)を始め多くのことに挑戦していきたいと思っています。



まだまだ分からないことも多く、試行錯誤の毎日ですが今年もご指導よろしくお願ひします。

看護師 松永 亮太

今

年で看護師四年目を迎えます。これまで患者さんや病棟スタッフに恵まれ、毎日たくさん笑顔のなか楽しく仕事をする事ができてとても感謝しています。今年もこの気持ちを忘れず、自分自身「明るいあいさつと笑顔」を心がけ、患者さんも笑顔で気持ちのよい入院生活を送っていただけたらと思っています。



また色々なことに挑戦したり、たくさん笑って一日一日大切に充実した一年にしたいと思います。

看護師 中野 由有